

平成 2 9 年度決算概要説明書

平成 3 0 年 9 月 3 日

平成２９年度の一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の認定をいただくに当たり、決算の概要を申し上げます。

【 総 括 】

伊東市制施行７０周年の節目を迎えた本市の平成２９年度一般会計当初予算は、景気回復の兆しが見え始め、個人市民税や入湯税の増収が見込まれた中においても、財政健全化に向けた取組を着実に進めつつ、市民の皆様と行政が協働し知恵を出し合う「未来協知」の取組を発展させ、市民幸福度向上を図り、将来像実現を目指して、未来を見据えたまちづくりをより充実したものに発展させる各種施策の展開を念頭に、サマーレビューの成果を反映させたものとなりました。

歳出においては、サマーレビューで見直した事業費を予算要求額の上限とする中で、伊東市制施行７０周年を祝うとともに、移住定住の促進や起業支援及び空き店舗対策などの地域活性化事業を始め、図書館・文化ホール建設基本構想策定事業や育英奨学金制度の拡充などの教育環境の充実や子育て支援、ジオサイトを中心とした観光施設整備、南幼稚園富士見分園耐震補強工事などの防災・減災対策に予算を重点的に配分することとしました。

その結果、一般会計の予算規模を２５７億円と、前年度を０．２％上回る積極型の予算とし、その後、シティプロモーション事業を始めとする観光関連予算やふじのくに地域少子化突破戦略応援事業などの子育て関連予算の増額、介護保険事業等社会保障関係の特別会計に対する繰出金の増額に加え、市民の利便性を向上させるため、平成３０年度中に住民票等のコンビニ交付事業を実施するための債務負担行為を設定するなど、８回にわたる補正を行い、最終予算規模を２７７億２，８５１万円としました。

執行に当たりましては、常に国県の動向や経済情勢を注視しつつ、効果的・効率的な執行に意を注ぎ、山積する課題に積極的に対応するとともに、対話を基に市民の皆様との融和を図る中で、本市の発展に向け努力してまいりました。

以上、平成２９年度の予算編成から決算までの背景を申し上げます。

引き続き、決算の内容につきまして説明します。

一般会計における歳入決算額は、２６９億５，０３７万４，０００円で、対前年度比２．９％の減となり、歳出決算額は２５９億６，４４４万２，０００

円で、執行率は93.6%、対前年度比4.0%の減となりました。

歳入歳出差引額は9億8,593万2,000円となり、生活環境向上対策事業や耐震対策推進事業などの繰越明許により、翌年度へ繰り越すべき財源1億9,606万5,000円を差し引いた実質収支額は、前年度を41.4%上回る7億8,986万7,000円となりました。

歳入決算につきましては、自主財源では、大きな比重を占める市税が前年度収入額を0.7%、また、ふるさと伊東応援寄附金が増加したことにより寄附金が対前年度比593.4%上回る決算となり、自主財源全体でも対前年度比1.3%の増加となっております。

依存財源では、利子割交付金を始めとした各種交付金が増加したものの、学校給食センター建設事業や健康福祉センター建設事業などの大型事業が完了したことにより、市債が対前年度比34.7%、国庫支出金が5.7%減少しております。

歳出決算につきましては、経常経費において、維持補修費が3.1%、扶助費が2.7%減少しているものの、平成26年度に借り入れた一般廃棄物処理事業債の元金償還が始まったことなどにより、公債費が8.4%、ふるさと伊東応援寄附金返礼事業などにより物件費が対前年度比7.4%増加しております。

投資的経費につきましては、普通建設事業において、学校給食センター建設事業や健康福祉センター建設事業などの大型事業が完了した結果、対前年度比で47.8%と大きく減少しております。

また、市制施行70周年の節目の年を迎えたことから、按針メモリアルパーク整備事業や70周年記念ディズニーパレードを実施するなど市制施行70周年を記念する事業を実施するとともに、地域タウンミーティングや「市長への手紙」、未来ビジョン会議を開催し、その中で市民の皆様からいただいた御意見に対し迅速に対応するなど、ボトムアップによる市政運営にも取り組んでまいりました。

さらに、ふるさと伊東応援寄附金返礼事業を実施して寄附金が約1億8,000万円増加するなど財源を確保するとともに、住宅リフォーム振興補助事業や地元業者に対しておよそ6,500万円にも及ぶ小規模修繕工事等を幅広く

発注するなど、本市独自の切れ目のない緊急経済雇用対策により、市内経済の活性化にも努めました。

以上が、一般会計歳入歳出決算の概要であります。

本市の財政は、職員の人件費を含むすべての事務事業の見直しなど、これまで一貫して継続してきた様々な改革への取組により、適正とされる規模の黒字を確保するとともに、文化施設整備基金や体育施設整備基金への積立てなど、将来を見据えた財源の確保を図ることができていることなどから、健全化判断比率や経常収支比率、実質収支比率などの財政指標も含め、その健全性は維持できているものと判断しております。

一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の概要につきましては、引き続き、担当部長から説明いたします。

私は、市長就任以来、「みんながつくる伊東市」、「みんなが楽しい伊東市」、「みんなが暮らす伊東市」の3本柱と、対話と融和で「未来を拓く」、夢と希望を形にするためにを経営方針として市政運営に取り組んでまいりました。今後この方針に基づき市民のため、本市の発展に努めてまいる所存であります。

最後になりましたが、本決算につきまして、認定いただくようお願い申し上げますとともに、本決算の意義を真摯に受け止め、市民の皆様や議員各位からの貴重な御意見、御指導をいただきながら、最善の努力をしてまいりたいと存じます。